～３７号－２０１６年2月１日発行～
＊１０代、２０代、３０代以上の不登校・ひきこもりの方の社会参加を考えるNPO法人です。

ポラリス通信

～不登校・ひきこもりの対応ニュース～

NPO法人不登校情報センター
訪問サポート部門トカネット・代表藤原宏美

下記の予約先
E-mail／tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp（藤原）／ 090-4953-6033（藤原）

不登校・ひきこもりの個別相談　行なっております

（予約制・ご相談料金3000円です。）

訪問サポート（メンタルフレンド　・同行援助）説明日

◆2月　16日（火）13時～　・　◆2月　20日（土）13時～
（※無料／保護者様対象で、お一人でも行います。／お子様の年齢10代～40代）

皆様、こんにちは、毎日寒いですね。早いもので、年が開けたと思っていたらもう2月です。いかがお過ごしでしょうか。

昨年は、私どもの、「いばしょワーク」に通っていたメンバーが2人、就労につながりました。　30代、40代です。一人は、職人さんのお手伝いで初めての仕事でした。ミスをしても「真面目で一生懸命やっている人に、教えはしても叱りはしない」と、ひきこもっていたことに理解のある社長さんでした。

もう一人は、IT 系の会社で一般事務です。半年行って一回ダウンしましたが、少し休んでまた復活できました。　社会経験の少ない人たちの就労は、戦場に行くくらい恐怖が伴うようです。でも、そこにひとりでも自分を評価してくれる人がいると、明日も行こうと思えるようです。

先月の10代、20代の対象の、「不登校ひきこもり親会＆ミニセミナー」では、ポラリス通信に体験談を連載している大学生、本田君が参加して下さり、「ひきこもり体験発表と質疑応答」をしました。親がどんなに心配してくれても、親には反発してしまったこと。親が自分を信じてくれていたこと。自分の思っていることを親に話せた日の事を涙ながらに話して下さり、参加者全員が多くを学ばせて頂きました。もう少し、話しが聞きたいという声が多いため，続編を考えています。

【トカネットは10代から40代くらいの方への訪問サポートをしております。】

〔質問17〕卒業を勧めて欲しいのですが・・・。

高2の娘ですが、将来喫茶店をやりたいという夢があります。高校を中退して、知人のお店に見習いに行きたいといっています。親としては、高校は卒業して欲しいと思っています。一人っ子なので大学生のお姉さんと話す機会でもあれば、考え方を変えてくれるのではないかと期待しています。高校は卒業するようにメンタルフレンドに説得してもらうことはできるのでしょうか。

（お答え）お子さんの冷静な判断の手助けをできればと思います。高校を卒業するようにと説得することは難しいと思います。親の気持ちの代弁者に受け取られることもあります。他人からの説得で簡単に気持ちを変えることは困難ですが、まだ柔軟性の高い年齢です。大学生のメンタルフレンドと関わることで影響を受けて、もう少し広い世界を知り、冷静な判断をする手助けにはなると思います。

〔質問18〕高校に行けますか。週何回くらいがいいですかですか。

中3の息子は学校の先生と合わないことが原因で、中1の2学期から不登校になりました。長い間ゲームとテレビだけの生活でしたが、ようやく高校に行きたいと言い出しました。いままでほとんど家族以外の人とかかわっていないのですが、メンタルフレンドとかかわれば、勉強をして高校に行けるのでしょうか。また、週に何回くらいがいいのでしょうか。

（お答え）自己肯定感やモチベーションが高まれば勉強や高校進学の意欲につながります。不登校やひきこもっている本人が、高校へ行きたいとか、～がしたいと言い出したことは、焦りを感じたり、退屈になってきたりと、いまの生活に変化を求めだしてきています。

しかし、言い出したからと言ってすぐに動けるわけではありません。周りがあわててお膳立てをしてしまうと、本人がついていけなくなりプレッシャーになることも多々あります。高校に行くためとか、相談にのってもらうためとかを先に親が決めないことです。そういう条件付きだと、期待に沿えなくなり子どもは引いてしまいます。

まずはメンタルフレンドと好きなことを話したり、遊んだりして安心できる人間関係をつくっていくことが大切です。それがたのしいと思えるようになれば、自然に気力やモチベーションが上がっていきます。それを待ちましょう。そうなれば、メンタルフレンドとパソコンで高校探しをしたり、一緒に高校見学にいったり、本気で勉強を始める子どもがたくさんいます。

サポート回数に関しては、家族以外にかかわる人がほとんどいない場合は、週1回が理想的な回数だと思います。週1回だと月に4回です。本人の状態によって隔週1回で、月に2回ぐらいから始めるケースもあります。本人が30代、40代の場合は月に2回が多いです。

（次号に続く）

戸惑いの時代を抜けて自分を生かす時代が近づく

松田武己

不登校の中学３年生を訪ねました。好きなことは自動車だそうです。運転はできませんがカタログを多数集めていて１００種類ぐらいにはなったといいます。「デザインに関心が？」と聞くと「型ですね」と答えます。「高校へ行く目標になるね」と言うと、ちょっとわかりにくかったようです。数学やパソコンとそれを知る英語などの学習は、　自動車への関心を伸ばすものになるのです。

このところ引きこもりや不登校の当事者と会うと、その興味・関心を聞き出す方向になります。フィギュアを売っている、動画サイトを見ている、パソコンのハードへの関心、英語を生かしたい、ウサギを飼っている、布を扱うのが好き…最近聞いた例です。

この個人的な興味から出発するのは私の場合も同じです。子どものころから地図を見るのが好きでした。いまもとても役に立っています。高校時代にはその延長で事典づくりに進みました。社会人になってからもそれは続き、いまの不登校情報センターのホームページはネット時代の事典づくりです。

いまの子ども・青年たちはネットにより興味から職業に転換できる条件にいます。「勉強でいい成績をとり、いい学校に行き、いい会社に入る」一昔前のコースから「自分の興味を生かす」コースのための社会的な基盤ができつつあるのです。

このような時代の転換点を前にして、それを強く感じる条件にいる子ども・青年の戸惑いや判断を見きわめようとする状態が、引きこもりや不登校の意識できない隠された理由になっているのです。

この不透明な時代もようやく抜け出し、少なくともその先にある時代をすかし見えるところまで突き進んできたと私は考えています。

１９６０年代の終わりごろに「情報化社会の到来」が予測され、アルビン・トフラーが『第三の波』を表わしたのは１９８０年でした。その予測した姿が、必ずしも予測通りではないにしても、目前に近づいているのです。

大量生産と並んで、個人使用にカスタマイズされること（オーダ―メイド型）が強く求められる社会になりました。それを実現する技術的な条件（スマートフォンとパソコン）が多くの人に普及している社会、それが情報社会です。

私が向き合う不登校の子どもやひきこもりの青年は、強い感覚（センス）と情感のため大量生産型の時代にはなじめなかったともいえます。この時代の終わりとともに新しい空気の中で興味を生かすことができるでしょう。しかし、この過去になりつつある時代の後遺症はなおしばらく続きます。世紀末から２１世紀初めの転換点で、不登校や引きこもりの人から学んだことはこれからの時代に通用する財産です。

◆今後のお知らせ

（１）訪問サポート（メンタルフレンド・同行援助）説明日

★大学生や社会人による、不登校やひきこもりの人への訪問サポート（メンタルフレンド・同行援助）を１９９８年から行っています。
サポーターとかかわることで、どのように学校や、就労を含めた社会参加につながっていくのかを中心に説明を行います。

＊日時：２月１６日（火）、１３時～。
２月２０日（土）、１３時～。
＊対象：親ご様（お子様年齢１０～４０代）
★お一人でも行います。

（２）不登校・ひきこもりの親の会

●何が子供におきているのか。●親が出来る事。●安心出来る人間関係を作っていくこと。●モチベーション・自己肯定感を上げていくこと。●学校復帰・バイト・友達づくりなどの社会参加につなげていくこと・・・など複数の専門家と一緒に考えていきます。

＊日時：２月２７ 日（土）、１３時～。
＊参加費：お一人 500 円。
＊対象：１０代および２０代の子供の親　・体験者　・学びたい人。

（３）「大人のひきこもりを考える教室」

＊日時：２月１４日（日）、１３時～１５時。
＊参加費：お一人 500 円。
＊対象：３０代以上のひきこもりのご家族・経験者・学びたい人。

◎上記は、全て予約制です（連絡先は下記まで）。
◎場所： NPO 法人不登校情報センター（JR総武線「平井」駅南口・徒歩5分）
◎地図は、下記のホームページ（URL）をご参照ください。

●NPO 法人不登校情報センター
●訪問サポート・トカネット

【発行元】　ポラリス通信編集部
〒132-0035　東京都江戸川区平井 3-23-5-101
連絡先・予約先
TEL／03-5875-3730／090-4953-6033（藤原）
E-mail／tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp
URL／http://www.futoko.info/tokanet/